第２期
北河内４市リサイクル施設組合
温暖化対策実行計画
温室効果ガス排出量結果
（2025 年度）

2026 年 10 月

北河内４市リサイクル施設組合

2025年度北河内４市リサイクル施設組合温室効果ガス総排出量結果

１　温室効果ガス総排出量の削減目標および結果

⑴　目標

2030年度の温室効果ガス総排出量を、2013年度を基準に、10%削減することを目標とします。

⑵　結果

2025年度の温室効果ガス総排出量は、二酸化炭素に換算して390.87トンで、2013年度と比較して15.80%減でした。

減少となった理由は、排出量の最も大きな要因となる電気使用による二酸化炭素排出量が大幅に減少(15.99%減)となった影響です。

⑶　温室効果ガス総排出量

実排出係数（電気）を用いた温室効果ガス総排出量

年　　度		2013年度	2025年度	増減率(%)
総排出量		464.22 t-CO_2	390.87 t-CO_2	▲15.80
内訳	電気使用による	461.64 t-CO_2	387.82 t-CO_2	▲15.99
	ｶﾞｿﾘﾝ使用による	1.45 t-CO_2	0.79 t-CO_2	▲45.69
	軽油使用による	1.13 t-CO_2	2.26 t-CO_2	100.00

⑷　排出係数

年　　度	2013年度	2025年度
電気排出係数	0.000514 t-CO_2/ kWh	
ｶﾞｿﾘﾝ排出係数	2.32 t-CO_2/kL	
軽油排出係数	2.58 t-CO_2/kL	

２　項目別結果

⑴　用紙類購入枚数(Ａ４換算)の推移

年　　度	2013年度	2025年度
用紙購入枚数	75,000枚	50,000枚
総合評価値	82	87

⑵　エネルギー使用量の推移

ア　電気

年　　度	2013年度	2025年度
使用量（kWh）	898,134	754.516
増減率（%）	基準年度	▲15.99

イ　ガソリン

年　　度	2013年度	2024年度
使用量（Ｌ）	624.05	338.90
増減率（%）	基準年度	▲13.79

ウ　軽油

年　　度	2013 年度	2024 年度
使用量（Ｌ）	438	876
増減率（％）	基準年度	100.00

３　2025 年度温室効果ガス排出の抑制対策

⑴　電気の使用・電化製品の購入

ア　昼休み及び残業時等は、支障のない範囲で必要最小限の照明を実施した。

イ　庁舎内の温度は、18 度以上 28 度以下を目安にした。

ウ　エレベーターの使用を控え、階段を利用した。

エ　不要なＯＡ機器の電源は、オフにした。

⑵　紙の購入・印刷物の発注

ア　コピー用紙の購入にあたっては、総合評価値 80 以上の用紙を購入した。

イ　トイレットペーパーは、古紙配合率 100％で白色度のより低いものを使用した。

ウ　原則として、両面コピー、縮小コピー及び両面印刷を行った。

エ　使用済み用紙の裏面を再利用した。

オ　使用済み封筒を再利用した。

カ　文書・資料の簡素化及び作成部数を最小限にした。

キ　裏面利用可能な用紙ボックスを設置した。

⑶　水道

ア　水道を使用するときは、日常的に節水に努めた。

イ　リサイクルプラザ内の樹木への散水は、できるだけ雨水を利用した。

⑷　車の使用・購入

ア　不要なアイドリングの中止を徹底した。

イ　急な発進や停止を行わず、燃費の向上に努めた。

ウ　タイヤの空気圧調整等の定期的な自動車の整備を励行した。

エ　短距離の移動には、徒歩や自転車の利用を図った。

オ　出張等は、公共輸送機関の利用に努めた。

カ　公用車の利用の合理化等により燃料使用量の低減に努めた

⑸　廃棄物の処理

ア　ごみの減量・リサイクルを推進した。

イ　使用済みの用紙類の分別回収ボックスの活用を徹底した。

⑹　グリーン購入の推進

ア　鉛筆及びボールペン等の文具並びにその他の事務用品は、廃木材及び廃プラスチック等の再生材料から作られた製品など環境負荷の少ない製品を購入した。

イ　詰替可能な製品を優先的に購入し、使い捨て製品の購入を控えた。

ウ　「エコマーク商品」((財)日本環境協会作成)、「グリーン購入ガイドブック」(グリーン購入ネットワーク作成)、「グリーンマーク商品」((財) 古紙再生促進センター) 等を参考に環境負荷の少ない製品を購入した。